

動機カード

高貴なる者の義務

あなたは危険を求める人間ではない。だが、家柄に恵まれ、健康体に恵まれた者であれば、社会が脅かされた時、社会的弱者を含む社会を守ることこそが自身の義務なのだと理解している。それを怠ると、家名に影を落とすことになる。これ以上にひどい失敗は存在しない。

友情

先の戦争での戦いから学んだように、同志愛に勝る美德はない。友が危険に晒されているのであれば、果敢に、そして衷心から、彼らに従わねばならないのだ。

冒険心

戦争が終わったのは良いことだが、敵を失ったことで、君は何となく憂鬱な気分になっている。戦時中ほど、生きている時間を実感したことはない。かつて憧れた晴天の安穏とした日々が、今は退屈で空虚に思える。戦うに値する新たな戦場があれば、君は先陣を切って突破口に向かうだろう。

好奇心

なにか妙なことが起きると、君はつつい鼻を突っ込んでしまう。その結果、鼻を失いそうになったことも幾度かある。(それにしても、何かとても不思議なことが起きているような、自分がここにいるというありきたりなことそれ自身が、最大の謎であるような気がしてならない)

古き芸術への関心

この新たなる平穏の時代において、心を癒やし、鎮める芸術が流行しているのだが、あなたは前時代の退廃的な芸術作品に対して、控えめな関心を抱き続けている。君は詩が人間の心の深淵を抉り、絵画が美しいだけでなく奇怪なものも描いていた時代を覚えているのだ。いつの日にか、自分の詩を世界に向けて披露し、心象の扉を再び開くのだ。だがその前に、肝心要の詩を書かねばならない。そのためには、他の者たちが一顧だにしないような、影の射す片隅を覗き込まねばならないのである。

秩序の守護者

歴史というものは、混沌と秩序の永遠の闘争から成り立っている。無政府状態がヨーロッパを席卷している最中、君はここアメリカにおいて、その兆候を警戒している。先の戦争で、君や他の者たちが流した血を無駄にしてはならない。どこであれ、無秩序が迫っているのであれば、あなたはそれを鎮圧するべくそこに立つのだ。